

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	みらいキッズ月島（放課後等デイサービス）			
○保護者評価実施期間	2024年4月1日		～	2025年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	42	(回答者数)	29
○従業者評価実施期間	2024年4月1日		～	2025年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数)	10
○事業者向け自己評価表作成日	2024年3月14日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童の将来を考えた支援を行っていること。	身辺自立や児童が考え行動する力を養うため、指導員は児童に合わせて支援内容を調整しています。特に児童の力でできることである場合は、先回りした支援を行わず自身の力で行うことを促しています。また児童の様子については児童発達支援管理責任者を中心に共有を図り、全員が同じ対応ができるよう心掛けています。	提示される課題や活動の中で、今後もより多く児童が考えて行動する機会を作っていきます。個別の課題に対しても児童がサービス提供時間の中でいつ取り組むのか、計画を立て実行したり、会話の中でも相手の気持ちを考えた言葉選びなど、指導員はその状況の場のきっかけを作ります。そして児童それぞれに合わせた支援を行いながら、徐々に児童の力で考え行動し、物事を解決できるようします。
2	児童・職員共に明るく、安心できる環境が整っていること。	まず指導員が明るく児童へ挨拶することを意識して行っています。児童の学校やご家庭であった事柄を聞き出し、楽しかったこと・嬉しかったことは共感し、悔しかったこと・悲しかったことも共感した気持ちを伝えながらも前向きな気持ちになれるようアドバイスを行っています。	児童の交友関係は年齢を重ねるごとに複雑になりやすいと考えられるため、児童の悩みを相談できる場の提供だけではなく、物事の捉え方や相手の気持ちの受け取り方など児童が良い方向へ変わっていくように支援と練習の場の提供を行います。
3	職員が臨機応変に対応し、保護者からの要望に広く対応していること。	保護者からの連絡方法として電話だけでなくラインも取り入れているため、保護者の忙しい合間に連絡を取りやすくしています。急な要望に対しては当日の状況の中で、できる限りの対応の提案を行い、保護者が安心してご利用いただけるよう努めています。	保護者からの要望に対し職員全員が臨機応変に対応できるよう、今後も職員の研修や対応方法の共有を図ってまいります。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	注意を行う際に指導員の声の大きさや語調など、まだ留意が必要であること。	児童に対し指導員それぞれが真剣に向き合っているため、児童に理解してほしい気持ちから強く伝えてしまう傾向があります。その気持ちは大切に持ちつつも、それぞれの特性や性格をより理解することが必要です。	指導員それぞれがしっかりと留意するとともに、職員の間で気になる点があれば伝えあい、互いに気を付けていくようにしています。また定期的な研修を受け、自身の支援方法について考え、周りとの共有を図っていきます。
2	地域交流の機会を作ることが難しいこと。	それぞれの学校の下校時間がばらばらであり、そろって地域の活動へ参加する事が難しい状況です。また地域で行われる活動に対し、利用児童が興味を示しにくいことも多く、指導員からの提示方法も模索しています。	どの児童も関心を持ちやすい事柄(地域のお祭りや運動系のイベントなど)から検討できればと考えます。また実際に参加する際には何よりも安全性を考慮し、綿密な計画を立てて実行していきます。
3	バリアフリー化が足りておらず、急な階段での上り下りが必要なこと。	事業所には階段のみ設置されている環境です。手すりはありませんが、急なため注意が必要になっています。	階段から落ちないように指導員が必ず付き添っています。また足元が不安定な児童は手すりを持つことを促すだけではなく、指導員も手をつなくようにして事故の防止に努めています。